

12/28#1新約の務め...その霊の務め、義の務め、和解の務めは、私たちを新しい復興の中へともたらず

CP1その霊の務め 新約の務めは、神聖な啓示の高嶺としてのその霊の務めであって、私たちを新しい復興の中へともたします 2コリ3:6 神はまた私たちを新しい契約の奉仕者として、資格づけてくださいました。それは、文字ではなく、霊の奉仕者です。なぜなら、文字は人を殺しますが、その霊は人に命を与えるからです。 **FN1**律法の文字は、人に要求するだけです。それは人に命を供給することができません。 **FN2**その霊は、手順を経た三一の神の究極的表現です。三一の神は命を与える霊と成って、神聖な命、すなわち神ご自身を、信者たちと使徒たちに分与します。そして彼らを新契約、命の契約の奉仕者とします。ですから、彼らの務めは、彼の命を与える霊によって、命である三一の神をもって構成されています。 **B**聖書の最後には、驚くべき夫婦がいます。すなわち「その霊」としての、手順を経て究極的に完成された三一の神は、「花嫁」としての、手順を経て究極的に完成された三部分から成る召会と結婚します。 啓22:17 その霊と花嫁が言う、「来たりませ!」。聞く者も「来たりませ!」と言いなさい。渴いている者は来たれ。欲しい者は、命の水を値なしに飲むがよい」。

CP2義の務め 新約の務めは義の務めであり、それはキリストを生かし出し、キリストを真に表現すること、すなわち神・人の生活であって、私たちを新しい復興の中へともたします **A**キリストが信者たちにとって義であることには二つの面があります。 **1**キリストは私たちの客観的な義であり、それは私たちが神へと悔い改め、キリストの中へと信じる時、神の御前で義とされるためです。 **2**キリストはまた私たちの主観的な義であり、それはキリストを生かし出し、キリストを真に表現することであって、キリストを生きることによって神を表現している超越した状態です。 ローマ5:18 一度の違犯を通してすべての人に罪定めが及んだように、一度の義なる行為を通して、すべての人に命の義認がもたらされたのです。 **FN**命は神の救いの目標です。ですから、それは「命の」義認です。義認は、それ自体では終わりではありません。それは命のためです。義認を通して、私たちは神の義の標準に達し、それに調和します。ですから今や、神は彼の命を私たちに分け与えることができるのです。義認は、私たちの外側の立場を変えます。命は、私たちの内側の性質を変えます。 **21** それは、罪が死の中で王として支配したように、恵みもまた義を通して王として支配し、私たちの主イエス・キリストを通して永遠の命に至るためです。

CP3和解の務め 新約の務めは和解の務めであり、

その内在的な意義は、神にしたがって牧養することであって、私たちを新しい復興の中へともたします

B使徒パウロは完全に神に和解させられていたので、資格づけられてキリストの大使となり、キリストを代行し、人々を牧養してキリストの中へともたしました。パウロはキリストの大使として、「代理の神」でした。 2コリ5:18 これらすべてのものは、神から出ています。彼はキリストを通して、私たちをご自身に和解させ、その和解の務めを、私たちに与えてくださいました。 **20** ですから、私たちはキリストのために大使であり、いわば神が私たちを通して、あなたがたに懇請しておられるのです。私たちはキリストに代わって、あなたがたに懇願します。神に和解させられなさい。

C1ペテロ5:1-2は、私たちが神にしたがって人々を牧養する必要があると言っています。「神にしたがって」が意味するのは、私たちが神と一であり、愛、光、聖、義という神の四つの属性において神となるということです。私たちは、これら四つの属性にしたがって、若い人たち、弱い人たち、後退している人々を牧養し、完全に神の中へともたさなければなりません。 1ペテロ5:2 あなたがたの間の神の群れを牧養しなさい。強いられてではなく、自ら進んで、神にしたがって監督し、卑しい手段で利得を求めることによってではなく、熱心に監督しなさい。 **FN**「神にしたがって」神の性質、願望、方法、栄光にしたがってであって、人の好み、興味、目的にしたがってではありません。

証111月の台湾ブレンディングに参加できたことを主に感謝します。今回北投で接待して下さった家庭は、7月に神戸にブレンディングに来て私の家に泊まった兄弟と2人の子供たちの家でした。彼らが私の家に泊まった日は、丁度下の子供の誕生日で、ケーキを買って来たので一緒に祝って欲しいと言われ、私の家族も一緒に祝ったことが印象に残っています。

神戸にブレンディングに来る前、兄弟も子供たちもあまり召会生活を送っておらず、集会にもあまり参加していなかったそうです。しかし神戸でのブレンディングを享受して、その後兄弟は主日集会に毎週参加するようになり、平日の朝は集会所に寄って朝毎の復興をしてから出勤するようになり、子どもたちも青少年の集会に毎週参加するようになったと聞き、とても励まされました。本当にブレンディングには多くの効果があります。

証2台湾訪問から戻って来た翌朝、余力姉妹がすぐに新人を訪問しに行かれると聞いて、私は照らされて、その後すぐに新人に台湾のお土産を持って今日家を訪問したいとラインで連絡しました。姉妹から「今日はお休みで家にいるけど、体調が悪くて家でゆっくりしています」と返信があったので、

体調が悪いなら訪問は別の日にして今日はゆっくり休んでもらったほうが良いのではないかと考えました。しかし、主に祈っているうちに、もしかしたら何か悩んでいて体調に影響を及ぼしているのではないか、そうであれば今日訪問したほうが良いし、まず電話をしてみてから考えたらよいのではないかという感覚がありました。電話をしてみると、その通りで、職場の問題で悩み、体が不調になっていると思うとのことでした。私は主に感謝すると同時に、自分が日本の文化的な良い人を生きていることを照らされ、悔い改めました。その後、姉妹を訪問して一緒に交わり、祈って、台湾訪問の交わりもすることができました。次の主日、姉妹は集会に来るとすぐに私のところに来て、「姉妹、家に来てくれてありがとうございます。私はあの後、元気になりました」と言ってくれました。私は日本の文化の中を生き、牧養においてよく失敗します。しかし主に開くことによって、神に従って牧養することを学ぶことができます。

祈り おお主イエスよ、顧みにおいて、私は自分の好み、興味、目的にしたがって牧養するのではなく、神にしたがって牧養する必要があります。そのためにパウロのように完全に神に和解させられ、神と一となる必要があります。神の性質、願望、方法、栄光にしたがって牧養することを学びます。

CP4 和解の務め...至聖所に進み出る **E** 私たちが他の人をどの程度、神へともたすことができるかは常に、私たちが神との関係においてどこにいるかによって測られます。私たちは神の中にいればいるほど、ますます他の人を和解させて、神の中へともたすことができます。パウロは至聖所の中に入ったので、信者たちに、至聖所に「進み出る:come forward」ように命じることができました(「出て行く:go forward」ではない): **ヘブル10:22** 私たちの心はすすがれて邪悪な良心から離れ、体は清い水で洗われ、真実な心で、信仰の全き確信をもって、至聖所に進み出ようではありませんか。 **1**...私たちの父なる神の愛し赦す心と、私たちの救い主キリストの牧養し探し求める霊とを私たちが持っていないことが、私たちが実を結ばないことの原因です。 **2** どれほど私たちが実を結ぶかは、私たちが行なうことができることにかかっているのではなく、私たちが親密な心遣いを持っているかどうかにかかっています。供給する命は、イエスの人性において人をはぐくんで彼らを温め、キリストの神性において、キリストの豊かをもって人を養う命です。 **E** 私たちはキリストの牧養を必要とします。それは私たちを至聖所の中へと導いて、私たちの霊の中で神と共に生きるようにさせます。それによって私たちは他の人たちを牧養して至聖所の中へと

もたらし、彼らを霊の中の人とすることができます。 **証** 私は三一の神が、「父なる神の愛し赦す心と、救い主キリストの牧養し探し求める霊」を持って牧養して下さったことにより、救われました。私は高校生の時、一人だけ尊敬する先生がいました。その先生は私の苦手な数学の先生でしたが、人間性が優れていた所以我は彼を大変尊敬していました。その先生が高校3年の最後の授業の始めに、「あなた方は聖書を読みなさい。聖書は本の中の本(The book of books)ですので、聖書を読まない、本を読まなかったということになります」と言われました。私は尊敬する先生が言われたことなので、それではいつか聖書を読まなければならないと自分自身に言いました。他の先生であれば、私は無視したと思います。その後、大学の入学後直ぐに、同級生に教会の集会に誘われました。私は数学の先生に言われたことを思い出して、参加することにしました。しかし、私はクリスチャンをいっくらか軽蔑する気持ちを持って集会に行きました。そのような不敬虔な態度で行ったのですが、集会の中に入ったその時、詩歌を賛美している聖徒たちから表現された栄光が私の心の中に差し込んできました。私は集会に入った、その瞬間に光を受け入れ救われました。そして、私は自問自答して、「彼らは喜びで満たされていますが、私には喜びがありません。私に必要なのは、彼らが持っているこの喜びではないでしょうか」と言いました。私はこの私の救いの物語を思い出すと、いつも感謝に満ち溢れ、涙が流れます。二一兄弟が書いた詩歌128は言います:

1. 不思議な恵み、御前で思う! 墮落した我、なぜ救うや? この世むさぼる罪の我を、主は尋ねだし、愛で包む。
3. わが罪のため、十字架で死に、我に平安を、与えたもう! 多くの罪と肉に生きる、この我をなぜ、主は愛すや?
5. 何の長所もない我のために、主は御座離れ、命捨てる! 主よ、自分にはなが目を引き、愛されるもの一つもなし! 当時の私は真にこの詩歌のような状態でした。 **ガラ2:20** ...私は今、肉体の中で生きているその命を、私を愛し、私のためにご自身を捨ててくださった神の御子の信仰の中で生きるのです。私は福音と牧養を実行する時、「父なる神の愛し赦す心と、救い主キリストの牧養し探し求める霊」を持つために、自分の救いのことを思い出して、新人たちや聖徒たちを祈りの中で担うようにしています。 **祈り** おお主イエスよ、人々を和解させて、神の中へともたすために、父なる神の愛し赦す心と、私たちの救い主キリストの牧養し探し求める霊が必要です。彼らを至聖所に導くために、まず自分自身が至聖所の中で神に触れ、牧養される必要があります。